

## 地域の声—

この春、小学校の統合が決まった玖島地区と浅原地区。大学生の姿はどう写るのか、地域の方にお話を伺った。



玖島地区コミュニティ推進協議会  
やくち・しんじ  
矢口 信二会長

「くじまに感謝祭」だけでなく、玖島小学校の運動会にも参加してもらい、大変ありがたく思っています。大学生が地域を再生していくその姿から、連鎖的に動きが広がっていくことを期待しています。

勉強のためだけでなく、玖島のことをもっと知ってもらい、一緒になって玖島を良くしていきたいと思えます。

浅原を好きになり、来てくれる人を拒む理由はありません。

多くの人が高校を卒業すると実家から出てしまうので、年齢構成でいうと、田舎には大学生の年代の人が抜け落ちているのです。その年代の「お兄さん・お姉さん」がいてくれることで、地域は計り知れない元気をもらいます。今後も続いてほしいと願っています。



活気ある浅原を創る会  
さかい・とよひろ  
酒井 豊裕会長



くじまに感謝祭実行委員会  
やまさき・せいじ  
山崎 誠司会長

統合が決まった玖島小学校。何かできないかというのが正直な思いです。

玖島の子どもたちが「いつか帰ってきたいな」と思えるような地域にしたいと思っています。

地域の活性化には若い人のエネルギーは欠かせないもの。大学生という新しい「風」を玖島に入れて、一緒に良い地域を作り上げていきたいと思っています。



浅原地区に関わる人間環境学部の皆さん



玖島地区に関わる山川ゼミの皆さん



写真上\_10月5日に玖島市民センターで開催された「くじまに感謝祭」。今年度限りで役目を終える玖島小学校校歌を歌う「くじま☆楽演隊」を同小学校卒業生や地域住民総勢60人で結成。オリジナルソング「ふるさとの風」とともに高らかに歌い上げた。



写真右\_広島修道大学の学生は、参加者の手形とメッセージで大きな木を描いた。参加者の一人は「形に残るので、面白い試みですね」と話してくれた。

## 大学生の声—



かわかみ・ゆうたろう  
川上 悠太郎さん  
(人間環境学部・2年)

浅原の運動会に参加させてもらい、思い出深い運動会を経験できました。浅原の皆さんが笑顔になるようなアイデアを考えていけたらと思っています。



たけおか・けんと  
竹岡 賢人さん  
(人文学部・3年)

玖島地区の人の温かさに触れ、やりがいもありますし、何より自分たちが楽しんでいます。将来は地域と係わるような仕事も考えるようになりました。

「知ってもらおういい機会になる」といった声が多く聞かれた。参加した学生からは、「温かく迎えていただき、人のつながりの深さを知った」、「過疎化の話って他人事だと思っていたが、真剣に考えなければならぬことだと感じた」、「自分の地元と重なった」といった感想を聞くことができた。

一方地域からは「授業だけの一過性のもので終わってほしくない」とその後のつながりを望む声も多く聞かれた。

広島修道大学の山川肖美教授は、「今は地域の課題を共有する出発点。今後、継続して課題に取り組んでいきたい」と話してくれた。

## 大学生の視点だからこそ、見つかるアイデアがきっとあるはず

今年度から授業を通して浅原地区と関わらせていただいています。人口減少・高齢化の課題を抱える地域の現状は、机上で教えても伝わりにくいものです。だから実際に地域へ足を運んで、目の前にある課題の解決策をチームで考えていく。その中で、大学生の視点だからこそ見つかるアイデアがきっとあると考えています。

この活動を通して、生活の場である地域の課

題に関心がなかった学生も少しずつ関心を持つようになったと感じています。自分が住んでいる地域を見直す機会にしてほしいですね。

来年度以降、もっと積極的に学生が地域と関わることができる仕組みを考えたいです。

授業が終われば浅原との関係も終わりではなく、休みの日にふらっと立ち寄って世間話ができる。そんな関係を築いていきたいと思えます。



広島修道大学  
人間環境学部  
まつかわ・たいち  
松川 太一准教授

## 地域が輝くお手伝いができることを誇りに思っています

地域と学校の持続可能な関係づくりをお手伝いしたいという思いから、3・4年生のゼミの学生と一緒に玖島地区と関わらせていただいています。実際に地域に出て、人と触れ合い、地域の人に育ててもらうことで、学生たちは将来社会で生かすことのできる力を身につけ、地域社会に貢献できる人材へと成長すると信じています。また学生にとって、地域の子どもたちと触れ

合う場面では、「教えられる側」から「教える側」の立場になります。その中で学生は、自然に自分を切り替え、自分で考えて行動するようになります。それは、教育学を学ぶ学生にとって、大学では経験できない貴重なものであると感じています。

何より、大学として地域が輝くお手伝いができることを誇りに思っています。



広島修道大学  
人文学部  
やまかわ・あゆみ  
山川 肖美教授



9月21日に行われた浅原小学校運動会。小学校の統合が決まり、最後の運動会となった。全校児童16人のため、地域の人も参加して一緒に盛り上げる。この日は広島修道大学の学生も運営や競技に参加。地域の特産である梨と茶人・上田宗箇ゆかりの地「岩船の水」をイメージしたキャラクター「あさなっちゃん」のTシャツも作られ、多くの人でにぎわい、人々の記憶に残る運動会となった。写真提供\_乾由賀里(いぬい・ゆかり)さん(浅原)。

その場所にある「土」と新しい「風」で  
その地域の「風土」は作られる。  
大学生が地域に入り込むことで、  
新たな可能性を探る—

# 風土をつくる 「風」になる—

## 風を起す

浅原・玖島地区に新しい風が吹き込んでいます。小学校の統合が決まった両地区に、広島修道大学の学生が関わり、地域を盛り上げている。

昨年からは始まった広島修道大学の「ひろしま未来協創プロジェクト」。地域が抱えるさまざまな課題や、まだ気付かずに眠っている地域の魅力を大学が地域とつながりながら発掘し、新しい価値へと磨き上げていく取り組みだ。その中で、学生たちは将来社会で生かすことのできる力を身につけ、地域社会に貢献できる人材へと成長していき

地域にとっては、若い世代が入り込むことで、元気をもらい活動の幅が広がる。また、地域の子どもたちは、高校生より上の若い世代と触れ合うことで、その背中を感じる事ができる。大学は地域の課題を事前に受け、何が必要なのか、何ができるのかを検討。そして実際に地域に入り込み、活動を共にする。具体的には運動会や地域のまつり、イベントなどの運営などを行う。

参加者からは「若い人が来てくれれば、にぎやかになる」、